



# うしくり通信

## 病院の言葉をわかりやすくするには



**現**代の医療は患者さん自身が治療を選択する「患者中心の医療」をめざしています。ところが、医師の説明で使われる言葉が難解なため、治療の選択どころか理解や納得ができない場合が多々あります。

**国**立国語研究所の調査で分類された代表的なものを列挙し、一部を具体的に解説します。

### ① 知られていない言葉

病理、イレウス、QOL、エビデンス、浸潤、予後

### ② 正確に理解されていない言葉

炎症、ショック、貧血、膠原病、ウイルス

### ③ 認知はされているが、理解度が低い言葉

糖尿病、肝硬変、動脈硬化、うつ病、脳死

### ④ 理解を妨げる心理的要因のある言葉

腫瘍、がん、抗がん剤、ステロイド

**ウイルス**：細菌より小さい病原体で風邪やインフルエンザの原因となります。理解されていない点は、細菌には抗生剤は効きますがウイルスには効きません。

**糖尿病**：放置すると生命にかかわる病気のもとになります。勘違いされているのは、甘いものを食べすぎて尿に糖が混じる病気と思われていますが、糖が体で処理できない濃度になっているのが糖尿病で、絶対に尿糖があるわけではありません。

**炎症**：「炎症が起こっている」という言葉は便利な言葉ですが、正確には理解されていません。医学的には難しい定義がありますが、炎症の5徴候（発赤、熱感、腫脹、疼痛、機能障害）のいくつかが認められた状態と理解ください。

**ショック**：医学的ショックとは、血圧が下がり、生命の危険がある状態ですが、日常語の「急な刺激」「びっくりすること」と誤解され、ショックという言葉を使わずに生命の危険があることを伝えなければなりません。

**腫瘍**：＝ガンではありません。腫瘍には良性と悪性があり、悪性の一部をガンと呼びます。

**頓服**：処方された時の症状と誤解され、痛み止めや解熱剤のことと理解されていることが多いようです。また、包装紙にくるんだ薬のことだという勘違いもあるようです。内服の方法で、食後など決まった時間ではなく、症状の出た時に飲むということです。

**QOL(Quality of life)**：「その人がこれでいいと思えるような生活の質」などと訳されますが、患者さんの満足度を一言で表現するのに最も適切な言葉なので、言い換えるより普及することが望まれます。

**患**者側としては、わからない言葉はすぐ質問していただき、医療者側は、知られていない言葉に関しては日常語に言い換え、理解が不確かなものには明確に説明し、言葉使いを工夫しなければなりません。

詳しくは<http://www.kokken.go.jp/byoin/>に掲載されていますのでご覧になってみてください。

**院長コラム**  
今年7月から猛暑日が続いている。「猛暑日」とは1日の最高気温が35℃以上の日のことだ。ちなみに「真夏日」は30℃以上、「真夏日」は25℃以上、「熱帯夜」は夜間の最低気温が25℃以上のことである。呼び名が耳新しいと思われるが、35℃以上の日が1990年以降急増し、1996年以降は7月7日の3倍近くに達しており、このため、「夏日」と「真夏日」に加えて、「猛暑日」が平成19年に決められた。冷夏も困るが、せめて残暑が厳しくないように願うばかりである。